

# 体育教師の社会的地位に関する研究 (Ⅲ)

## ～教師内地位の分化と教科・教師イメージ～

岡田 猛\*・武隈 晃\*\*

### ON the Social Status of the Physical Education Teacher (Ⅲ)

#### ～With Special Reference to Status Differentiation among Teachers and Image of Subject and Teacher～

Takeshi OKADA and Akira TAKEKUMA

## 緒 言

今日、体育教師は一方で“体罰”などで非難の矢面にたたされ、他方において“生活指導”や“課外クラブ指導”での役割が期待され、一種の葛藤、アンビバレンスのなかにおかれている。

ところで、「教育論」研究一般についてそれらがおおむね「教師の心構えないし教育の仕方」を説く「哲学的、道徳的、文学的ないし、せいぜい教授学的な教師論」に終始している事が指摘され、実証科学的研究の必要性が強調される状況<sup>1)</sup>にある。このような事情は個別教師論としての「体育教師論」研究にも反映して、「いわゆる体育教師論なるもののほとんどが、きまりきったように過去の体育教師の生活を怨念をこめて語り、また現代の体育教師については、きわめて無原則的にその生き方をきびしく告発するだけ」のものが大部分であったと批評されている<sup>2)</sup>。

さらに、教師研究における対象の枠組みについても、「教師を一括して論じることには明らかに限界がある。一方では学校の種類や段階により、他方では教師の属性、例えば担当教科、職位、年齢、性別などにより、教師の再分類が行われ、そうした下位分類ごとの教師研究がなされなくてはならない」とこれからの研究の方向が提案されている<sup>3)</sup>。

本研究は主として二つの目的をもっている。ひとつは、体育教師が社会においてどのような地位を占めているかを明らかにするために、体育教師を職業として捉え、他の教師や職業との比較を通してその社会的地位を推測しようとするものである。従来この領域の研究では、「教師」あるいは「小学校教師」が単独に項目として掲げられて他の職業との比較考察がなされてきているが、現実の分化した教師職のありようはこのような単一の項目で代表されるほど均一的ではないように思われる。

---

本研究は昭和62年度文部省科学研究費補助金（一般研究C課題番号61580113）の援助を得て実施された。

\* 鹿児島大学教育学部体育科（体育原理・体育社会学）

\*\* 鹿児島大学教育学部体育科（体育経営学）

これまでにわれわれは、高校性の父兄を対象にして調査を行い、教師の地位は小・中・高といった学校段階、さらには国・数・社・体などの担当教科によって異なっていることを明らかにしてきたが<sup>4)</sup>、今回は大学生を対象にしてそのことを検証するものである。

ところで、このようにして明らかにされた体育教師の社会的地位はさまざまな要因の影響をうけてそのものとしてあるのであるが、わけでも、学校生活をとおして、教科としての体育の内容や、その指導にあたる体育教師について、どのようなイメージがつくられるかということがとりわけ重要になってくる。その重要性は、学齢期が人格の形成のうえにおいてきわめてフレキシブルで影響をうけるところがおおきい時期であるという発達上の観点、さらには、その地位のありように誰よりも関心をよせるべき体育教師にとってなによりも身近であり、自らの努力によって変容が可能であるという実践的な観点、からくるものである。

本研究のふたつめの目的は体育の教科内容や教師についてのイメージという要因が体育教師の社会的地位にどのようにかかわっているかを明らかにすることにある。

以上のことを調査研究の仮説として示せば次のようになるであろう。

①職業としての体育教師の社会的地位は、学校段階によって異なり、また他教科の担当教師とも同じではないであろう。

②体育教師の社会的地位は、学校生活における被教育経験をとおして抱かれた教科内容や教師についてのイメージと関連があるであろう。

いずれも「研究仮説」というには具体的内容に欠けたもので、仮説としては“質”の低い「二変数相関」モデルに属するものである。

したがって、以下に続く「分析・考察」においては実質的には「事実探索的アプローチ」とそれほどの違いはないであろうが、分析の焦点付けのためには有意義であろう。

## 調査・研究の方法

調査対象；鹿児島市内の大学・短大4校の1年生

男 455人

女 444人 計 899人

調査方法；質問紙を用いた集合調査法

調査期間；1986年6月～7月

## 結果と考察

### I. 学校段階と教師の社会的地位

表-1はSSM調査より代表的な19の職業をえらびその地位の評定をもとめたものである。SSM

表-1 職業の地位スコア

	S S M調査	今 回 調 査			
		男 子	女 子	全 体	担 当 教 科 別
医 師	82.7 (2)	87.4 (1)	90.3 (1)	88.8 (1)	数学 (80.3) 英語 (79.0) 国語 (70.0) 理科 (67.3)
弁 護 士	87.3 (1)	85.7 (2)	88.0 (2)	86.9 (2)	
国 会 議 員	81.1 (3)	80.4 (3)	81.3 (3)	80.8 (3)	
大会社の課長	65.9 (4)	73.5 (4)	74.3 (4)	73.9 (4)	
プロ野球選手	58.2 (11)	69.7 (5)	64.3 (7)	67.0 (5)	社会 (57.8)
市役所の課長	60.4 (10)	62.2 (6)	67.2 (5)	64.7 (6)	
デザイナー	56.3 (12)	61.8 (7)	62.4 (8)	62.0 (7)	
高等学校教員	62.9 (6)	56.2 (10)	64.5 (6)	60.3 (8)	
機械技術者	61.0 (9)	57.3 (9)	59.7 (12)	58.4 (9)	
中小企業の課長	55.9 (13)	57.8 (8)	59.1 (13)	58.4 (10)	
新聞記者	64.6 (5)	54.8 (11)	59.0 (14)	56.9 (11)	
中学校教員	62.9 (6)	51.3 (12)	61.3 (9)	56.3 (12)	
小学校教員	62.9 (6)	50.1 (13)	61.1 (10)	55.5 (13)	
警察官	54.2 (14)	45.3 (18)	60.9 (11)	53.0 (14)	
電気機関士	51.8 (16)	48.9 (15)	53.0 (15)	50.9 (15)	音楽 (44.5) 美術 (43.2) 体育 (41.7) 技家 (36.8)
ファッションモデル	31.4 (19)	49.6 (14)	51.6 (16)	50.6 (16)	
卸売店主	52.5 (15)	47.2 (16)	48.0 (17)	47.6 (17)	
美容師	45.0 (17)	45.7 (17)	42.2 (19)	44.0 (18)	
農 業	45.0 (17)	41.1 (19)	42.9 (18)	42.0 (19)	

( ) 内は順位を示す。

S S M調査(1975)では学校段階ごとの調査が行われていないため、小学校・中学校・高等学校教員は同一スコア。

調査では「小学校の教諭(先生)」として一つの職業に代表させられていた教師職を、ここでは調査の意図から小、中、高の学校段階別に分けて評定させた。

なお、職業の評定は 1. 最も高い～5. 最も低い の5段階で求められ、それぞれの段階に0から25点間隔のスコアリングがなされて処理された。

表より学校段階による教師の職業的地位の違いがみとめられる。

つまり、教師を小学校・中学校・高校の学校段階別に示して評定させたところ、19職業中高校教師8位(平均60.3)、中学校教師12位(56.3)、小学校教師13位(55.5)の結果が得られた。特に高校と中学の間には「機械技術者」「中小企業の課長」「新聞記者」の三つの職業を挟む程の差がみられ、学校段階による地位の分化が認められた。

これは、われわれによる従来調査結果に重なるものであるが、その背景として次の諸点が考えられる。

### ① 教育内容としての知識や技術の高度化 (専門化)

小学校から中学、そして高校と学校段階がすすむにつれて、そこで教授される内容はそれまでの学校段階で履修された内容に基づいてそのうえに蓄積される。したがって、内容は複雑化し高度化するので、このことが教育担当者としての教師の社会的地位に以上のような分化をもたらしているものと考えられる。

### ② 教育内容としての知識や技術の分化 (専門化)

①に重なるところが大きいのであるが、学校段階に応じた教授内容の複雑化、高度化は教師にその担当内容を限定、専門化させ、いわゆる「教科担当制」をもたらす。現行制度においては中学校の段階から「教科担当制」に移行するのは周知のとおりである。

「職業内容の専門化」が地位の向上をもたらすことは、表-1にみられるごとく、高度に専門化のすすんだ職業とみられる「医師」や「弁護士」の地位が最高位に評定されていることをみても明らかである。

### ③ 必要とされる学歴の高度化 (高学歴化)

一般的にいて、小学校の教員は教員養成学部や短大、中学校から高校にかけてはいわゆる専門的な学部の出身者（さらに近年においては高校における大学院修了者）の占める割合が増加することが知られている。

そしてそれらの専門的な学部は概して教員養成学部よりも入試の難度が高く、そこでは科学のより専門的な履修が果たされていることが暗黙裡に前提されている。ある職業に入っていく難度はその職業の地位を高めるものと考えられる。

### ④ 構成人口の少なさ (希少性)

1984年度の小学校、中学校、高校の教員数はそれぞれ約47万人、28万人、26万人である。一般的に「希少性」は地位を高めるのに貢献するであろう。

また性別では女子に教師を高く評定する傾向がみられる。

## II. 担当教科と教師の社会的地位

さらに調査では項を改めて担当教科の違いによる九つの教師職について同じ手続きによる評定を求めたが、その結果も同じく表-1の右の欄にプロットしている。

高い順に、数学 (80.3)、英語 (79.0)、国語 (70.0)、理科 (67.3)、社会 (57.8)、音楽 (44.5)、美術 (43.2)、体育 (41.7)、技・家 (36.8) という評定結果を得た。

表-2はさらに性別に算出したものであるが、一貫して女子に高い傾向がみられるが、「順位」における違いはでない。

以上のように、受験教科に準じるとされるこれまでの幾つかの調査結果よりも体育教師の地位は低く評定されているが、体育教師の地位は評定者の学歴に反比例する傾向が他教科に比べて高いのではないかとするこれまでの研究から得られた仮説を勘案すれば、この結果は、大学生という今回

表－2 教師の担当教科別性別地位スコア一覧

	全 体	男 子	女 子
教 師	順位 地位スコア	順位 地位スコア	順位 地位スコア
数 学	① 80.3	① 79.2	① 81.4
英 語	② 79.0	② 77.9	② 80.2
国 語	③ 70.0	③ 67.0	③ 73.1
理 科	④ 67.3	④ 66.5	④ 68.1
社 会	⑤ 57.8	⑤ 55.2	⑤ 60.4
音 楽	⑥ 44.5	⑥ 39.2	⑥ 50.1
美 術	⑦ 43.2	⑦ 39.0	⑦ 47.7
体 育	⑧ 41.7	⑧ 36.5	⑧ 47.0
技 家	⑨ 36.8	⑨ 32.4	⑨ 41.5

の調査対象の特性に依るのではないかと推察される。

試みに今回の調査から対象を女子に限定して、国立四年制大学と私立二年制短大の在籍者による地位スコアを比較すると、いずれも後者がたかく、音楽と並んで特に体育教師においてその差が大きいという表－3の結果も、このような推察を部分的に支持するようにおもわれる。

表－3 担当教科別地位スコアの学校種による差（女子）

学 校 種	数学	英語	国語	理科	社会	音楽	美術	体育	技家
国・四 N=94	4.10	4.11	3.74	3.60	3.16	2.77	2.73	2.64	2.49
私・短 N=206	4.30	4.23	4.01	3.79	3.54	3.17	3.02	3.03	2.73
差	0.20	0.12	0.27	0.19	0.38	0.40	0.29	0.39	0.24

### Ⅲ. 学校段階・教科と体育教師の社会的地位

さて、これまでにみてきたように教師の地位は学校段階と担当教科という要因によってそれぞれ規定されていることが明らかにされた。しかしながら一般に学校段階が中学以上になると教科担当制に変わるので、中学・高校では教師は学校段階と担当教科という二つの条件に同時に規定されて存在しているということになる。

ところでこれらの学校段階と教科をクロスさせると18の教師職が分類されるが、これを同じ質問項目において評定させるには調査技術上無理がある。ましてや、教師職以外の他の職業をそれに加えた場合には一層困難である。

そこで今回の調査における評定が順位づけ（ranking）でなく評定（rating）によっていることから別々の質問項目においてそれぞれに評定された学校段階と担当教科の地位スコアの幾何平均をも

って学校段階別教科別教師の操作的な地位スコアとした。

以上の操作により算出された各種教師職の地位スコアを全体および性別に示したのが表-4である。

性別にみて、いずれの教師職においても女子が男子より一貫して高い地位スコアを与えていることは明らかである。女子においてはさらに、「高校・理科」と「中学・国語」、「中学・社会」と「小学校教師」、「高校・体育」と「中学・音楽」の間においてそれぞれ順位が入れ替わっているのが注目される。

「高校・体育」についてみると全体で19教師職中14位(50.1)であり、男子では順位は変わらないものの、女子では15位と1ランクおちている。

「中学・体育」は全体で17位であり、男女とも同順位に甘んじている。

表-4 学校段階別教科別地位スコア一覧

	全 体	男 子	女 子
教 師	順位地位スコア	順位地位スコア	順位地位スコア
高校・数学	① 69.6	① 66.7	① 72.5
高校・英語	② 69.0	② 66.2	② 71.9
中学・数学	③ 67.2	③ 63.7	③ 70.6
中学・英語	④ 66.7	④ 63.2	④ 70.1
高校・国語	⑤ 65.0	⑤ 61.4	⑤ 68.7
高校・理科	⑥ 63.7	⑥ 61.1	⑦ 66.3
中学・国語	⑦ 62.8	⑦ 58.6	⑥ 66.9
中学・理科	⑧ 61.6	⑧ 58.4	⑧ 64.6
高校・社会	⑨ 59.0	⑨ 55.7	⑨ 62.4
中学・社会	⑩ 57.0	⑩ 53.2	⑪ 60.8
小学校教師	⑪ 55.5	⑪ 50.1	⑩ 61.1
高校・音楽	⑫ 51.8	⑫ 46.9	⑫ 56.8
高校・美術	⑬ 51.0	⑬ 46.8	⑬ 55.5
高校・体育	⑭ 50.1	⑭ 45.3	⑮ 55.1
中学・音楽	⑮ 50.0	⑮ 44.8	⑭ 55.4
中学・美術	⑯ 49.3	⑯ 44.7	⑯ 54.1
中学・体育	⑰ 48.5	⑰ 43.3	⑰ 53.7
高校・技家	⑱ 47.1	⑱ 42.7	⑱ 51.7
中学・技家	⑲ 45.5	⑲ 40.8	⑲ 50.4

表-5 地位スコア一覧 (学校段階\*教科)

順位	職業	地位スコア	順位	職業	地位スコア
1.	医 師	88.8	19.	中学・社会	57.0
2.	弁護士	86.9	20.	新聞記者	56.9
3.	国会議員	80.8	21.	小学校教員	55.5
4.	大会社課長	73.9	22.	警察官	53.0
5.	高校・数学	69.6	23.	高校・音楽	51.8
6.	高校・英語	69.0	24.	高校・美術	51.0
7.	中学・数学	67.2	25.	電気機関士	50.9
8.	プロ野球選手	67.0	26.	ファッション モデル	50.6
9.	中学・英語	66.7	27.	高校・体育	50.1
10.	高校・国語	65.0	28.	中学・音楽	50.0
11.	市役所課長	64.7	29.	中学・美術	49.3
12.	高校・理科	63.7	30.	中学・体育	48.5
13.	中学・国語	62.8	31.	卸売店主	47.6
14.	デザイナー	62.0	32.	高校・技家	47.1
15.	中学・理科	61.6	33.	中学・技家	45.5
16.	高校・社会	59.0	34.	美容師	44.0
17.	機械技術者	58.4	35.	農 業	42.0
18.	中小企業課長	58.4			

「高校・体育」「中学・体育」とも、「小学校教師」を下回っている。このことは、中学、高校の体育教師を希望しながら需要の少なさのためやむなく小学校に職を求めるといふ、身近に経験する近年の大学における体育専攻生の進路希望志向に合致しないのであるが、調査の対象者の違いもさることながら「職業の地位」と「職業の魅力」の違いによるものとも解釈できよう。

表－5は、これらの学校段階別担当教科別各教師職を他の職業の間にプロットしたものの一覧である。

35の職業中、上は「高校・数学」の4位から下は「中学・技術・家庭」の33位までの実に広い範囲に分散していることになる。このような教師の職業的地位の分化に照らし合わせるとき、「教師」ないし「小学校教師」という単独の項目を設定した従来の数少ない実証的調査研究は、教師研究に焦点づける限り不十分であるという感は否めない<sup>5)</sup>。教師研究一般においてなされている「下位分類ごとの教師研究がなされなくてはならない」という指摘の妥当性を裏づけたものといえよう。

なお「体育教師」についていえば、35職業中、「高校・体育」は27位、「中学・体育」30位と低い地位に置かれていることが明らかである。

#### Ⅳ. 教科イメージ・教師イメージの教科（教師）間比較

##### ①全体の分析

職業としての体育教師が他の教師や職業従事者のなかにあつてどのような社会的地位を占めているかを明らかにすることは、体育教師のおかれた現実を「診断」するうえで意義があるであろう。

しかしながら、このようないわば独立変数としての体育教師の社会的地位はそれがあたかも宿命づけられているかの印象をあたえかねない。

ところで、体育教師の社会的地位には教科内容や教師の熱意・人柄についての評価、社会における価値観、教科として歴史的にはたしてきた功罪など、様々な要因が介在していることが推察される。これらの介在要因を明らかにし、教師の地位にたいする諸要因の影響のあり様を知ること、つまり従属変数（被説明変数）として体育教師の社会的地位を設定し解明することは、体育教師の地位の向上を考えるうえで重要になってくるであろう。

その際、被教育者としての体験からでてきた教師と教科にたいするイメージが教師の地位にどの程度影響を及ぼしているのかということは、関心のよせられるところであろう。このへんの事情については「緒言」においても触れたところであるのでここには繰り返さない。

以上の点を、他教科との比較を含めて体育教師に焦点づけながら以下明らかにすることにしよう。

本調査では中学、高校の被教育体験をとおして教科の内容、担当の教師にたいしてどのようなイメージが形成されてきているのかが調査された。

教科イメージ、教師イメージは表－6、表－7に示されるように、それぞれ5項目、10項目で構

成された。

まず表-6により全体的な教科イメージについてみてみよう。表中のスコアはいずれも「1. よくあてはまる」から「5. 全くあてはまらない」の五段階の評定尺度にたいする回答の平均値である。

表-6 教科イメージスコア (全体)

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
1. 自分の将来にとって大切であると思った	+++		+++		---	---	---		+++
	4.02①	3.47⑥	3.97②	3.61④	3.36⑦	3.11⑧	2.79⑨	3.55⑤	3.77③
2. 得意であった			---				---		
	3.18⑥	3.30②	3.02⑧	3.31①	3.22⑤	3.17⑦	2.96⑨	3.24④	3.29③
3. 社会の将来の発展にとって大切であると思った	+++	+++	+++	+++	+++	---	---		+++
	3.46③	3.35⑤	4.10①	3.54②	3.40④	2.89⑧	2.76⑨	3.08⑦	3.20⑥
4. 力を入れて取り組んだ	---	+++	+++			---	---		---
	3.07⑥	3.64②	3.67①	3.29⑤	3.30④	2.73⑧	2.65⑨	3.32③	2.95⑦
5. 授業中、楽しくさせてくれた	---	---	---	---	---	---	---		---
	2.90⑦	2.72⑨	2.84⑧	3.10⑤	2.92⑥	3.22③	3.21④	3.77①	3.25②

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる割合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、1%、0.1%の水準。

「自分の将来にとって大切であると思った」は九教科中五位、「得意であった」四位、「社会の将来の発展にとって大切であると思った」七位、「力を入れて取り組んだ」三位、「授業中楽しくさせてくれた」一位となっている。

ちなみに体育よりも有意に高い教科のイメージをしめす⊕の個数は11個(27%)、体育よりも有意に低いイメージをもたれている他教科の⊖の個数は19個(48%)であり、全体として体育教科はポジティブな教科イメージをもたれているといえよう。(表-8 参照)

わけても「楽しくさせる」「力を入れた」においては好イメージをもたれていることが明らかである。

「社会の将来の発展」にたいしてはそれ程でないことからすると体育教科は時間的パースペクティブ上の将来よりも現在を中心において価値づけられているといえるかもしれない。

次に全体の教師イメージについてみてみよう。

表-7によると、「学校全体の教育に関心」「独善的・自己満足的でない授業」「何ごとにも積極的に情熱的」においていずれも一位で他教師よりもポジティブなイメージによって特徴づけられている。

逆に「えこひいき」(九位)「知識・教養や人間性」(八位)についてのイメージはネガティブである。富永は中学生の父兄を対象にして、体育教師が他教科教師よりも「知性」が低く、逆に「貢献



表-7 教師イメージスコア (全体)

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
1. 自己に厳しく責任感が強い	+++	+++	+++			---	---		---
	3.60②	3.60①	3.57③	3.35④	3.39⑥	2.99⑧	2.99⑨	3.43⑤	3.14⑦
2. 担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心		---	---	---	---	---	---		---
	2.55②	2.83⑤	2.73④	2.70③	2.86⑥	3.20⑧	3.21⑨	2.48①	2.94⑦
3. 生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする		---	--	--	---	---	---		---
	2.77②	2.93⑧	2.81④	2.81③	2.92⑦	3.03⑨	2.90⑥	2.68①	2.82⑤
4. 幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	+++		+++	+++	+++		+		
	3.85①	3.16⑤	3.51③	3.60②	3.26④	3.09⑦	3.16⑥	3.07⑧	3.06⑨
5. 担当教科についての専門的知識や技能に秀でている		+++	+				++		---
	3.90⑧	4.13①	4.03②	3.89⑦	3.98④	3.98⑤	4.02③	3.95⑥	3.83⑨
6. 何事も積極的で、情熱が伝わってくる	-	-		---	---	---	---		---
	3.45③	3.44④	3.50②	3.28⑤	3.24⑥	3.08⑦	3.05⑨	3.56①	3.05⑧
7. 生徒に対するえこひいきが強い	+++	+++		+++	+++		+++		+++
	2.90④	2.94⑥	3.06⑧	2.69①	2.76②	3.03⑦	2.93⑤	3.10⑨	2.90③
8. 教職を生活の手段として考えている									
	3.18⑤	3.19⑦	3.17③	3.20⑧	3.20⑨	3.18④	3.10①	3.14②	3.18⑥
9. 確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	+++		+++			---	---		---
	3.52①	3.37③	3.42②	3.30④	3.24⑥	3.07⑦	3.01⑨	3.30⑤	3.06⑧
10. 生徒からも他の教師からも離れた存在である	+++		+++	++		---	---		---
	2.34①	2.47④	2.40②	2.45③	2.57⑥	2.90⑧	2.95⑨	2.55⑤	2.79⑦

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる割合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、1%、0.1%の水準。ただし、2、3、7、8、10の5項目は逆転させて示してある。

度」は高く評価されているという結果を導き出しており<sup>6)</sup>、森は大学生を調査した研究より「体育の教師は、…教師としてよりも、人間そのものに魅力を感じられているようにみえる。即ち知識や見解の広さよりも、学校のためによく働き、たよりになる責任感の強い教師という印象がもたれており、知識教科や技能教科の教師とは違う型の教師として評価されている」という結果を報告しているが<sup>7)</sup>、「えこひいき」を除いて本調査結果にかさなるところが大きいように思われる。

「教職を生活の手段として考えている」については全教師に共通してどちらかというとな否定的には捉えられているということも注目されよう。

⊕の個数が22個 (27%)、⊖が31個 (39%) であることから察せられるように、教師イメージについても全体として好意的にみられているといえるであろう。(表-8 参照)

教科イメージ、教師イメージをあわせてみると、体育教師より有意にポジティブなイメージのもたれている他教科・教師の⊕の個数は33個 (28%)、ネガティブな⊖の個数50個 (42%) であり、お

表-8 体育教師に比べて有意に高い/低いイメージ項目数

イメージ	全 体			男 子			女 子		
教科 ・ 教師	+	-		+	-		+	-	
	数 33	37	50	数 29	39	52	数 35	40	45
	% 28	31	42	% 24	33	43	% 29	33	38
教科	数 11	10	19	数 11	7	22	数 15	10	15
	% 28	25	48	% 28	18	55	% 38	25	38
教師	数 22	27	31	数 18	32	30	数 20	30	30
	% 28	34	39	% 23	40	38	% 25	38	38

おむね好意的に受け止められているといえよう。体育教師の地位スコアの教師間順位（8位）よりネガティブなイメージ項目はわずかに「生徒に対するえこひいき」のみであり、地位スコアと教科・教師イメージの間には大きな乖離が認められる。

## ②性別分析

①の分析を男女の性別に分けておこなった結果を示したのが表-9から表-12である。

男女間に大きな違いはみられないようである。

性別で違いがみられる数少ないイメージ項目はふたつである。

体育教師が他教師よりも「生徒に対するえこひいき」をするとみるものが男子よりも女子において多く、体育教師を「生徒からも他の教師からも離れた存在である」とするものは女子よりも男子に多い。

表-9 教科イメージスコア（男）

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
自分の将来にとって大切であると思った	+++		+++			---	---		-
	3.69②	3.57④	4.08①	3.46⑥	3.62③	2.59⑧	2.56⑨	3.48⑤	3.36⑦
得意であった	---		--		++	---	---		--
	2.85⑧	3.55②	3.20⑥	3.47③	3.65①	2.74⑨	2.95⑦	3.44④	3.24⑤
社会の将来の発展にとって大切であると思った	+	+++	+++	+++	+++	---	---		
	3.19⑤	3.41③	4.01①	3.32④	3.56②	2.67⑧	2.67⑧	3.07⑥	3.04⑦
力を入れて取り組んだ	---	+++	+++		++	---	---		---
	2.72⑦	3.75②	3.76①	3.31⑤	3.58③	2.24⑨	2.46⑧	3.35④	2.75⑥
授業中、楽しませてくれた	---	---	---	---	---	---	---		---
	2.62⑨	2.67⑧	2.69⑦	3.14④	3.06⑤	2.94⑥	3.19③	3.96①	3.24②

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる割合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、1%、0.1%の水準。

表-10 教師イメージスコア (男)

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
1.自己に厳しく責任感が強い		+++	+			---	---		---
	3.48②	3.58①	3.48③	3.30⑥	3.37④	2.91⑨	2.91⑧	3.35⑤	3.05⑦
2.担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心		---	---	---	---	---	---		---
	2.69②	3.00⑤	2.93④	2.80③	3.04⑥	3.32⑨	3.30⑧	2.56①	3.07⑦
3.生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする		---	--		---	---	---		-
	2.83④	3.01⑧	2.90⑤	2.82②	2.97⑦	3.05⑨	2.90⑥	2.70①	2.82③
4.幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	+++		+++	+++	+++		+		
	3.73①	3.08⑥	3.40③	3.55②	3.22④	2.99⑦	3.09⑤	2.97⑧	2.94⑨
5.担当教科についての専門的知識や技能に秀でている	-	+++					+		-
	3.76⑨	4.06①	3.89⑤	3.81⑦	3.95③	3.91④	3.98②	3.88⑥	3.79⑧
6.何事も積極的で、情熱が伝わってくる				---	---	---	---		---
	3.36④	3.37③	3.39②	3.25⑤	3.20⑥	3.01⑦	2.96⑨	3.45①	2.99⑧
7.生徒に対するえこひいきが強い			-	+++	++				+++
	2.89④	2.93⑤	3.07⑨	2.65①	2.77②	3.00⑧	2.95⑥	2.95⑥	2.77③
8.教職を生活の手段として考えている									
	3.19⑤	3.22⑧	3.20⑦	3.20⑥	3.22⑨	3.17③	3.09①	3.15②	3.18④
9.確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	+++		+			---	---		---
	3.48①	3.26③	3.35②	3.26④	3.20⑥	2.99⑧	2.95⑨	3.23⑤	3.02⑦
10.生徒からも他の教師からも離れた存在である	+++	++	+++	+++		---	---		--
	2.41①	2.55④	2.48②	2.49③	2.63⑤	2.95⑧	3.02⑨	2.73⑥	2.89⑦

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる度合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、1%、0.1%の水準。ただし、2、3、7、8、10の5項目は逆転させて示してある。

表-11 教科イメージスコア (女)

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
1.自分の将来にとって大切であると思った	+++	---	+++	++	---		---		+++
	4.35①	3.38⑦	3.86③	3.77④	3.09⑧	3.65⑤	3.03⑨	3.62⑥	4.19②
2.得意であった	+++		-		--	+++			+++
	3.52②	3.05⑤	2.85⑧	3.16④	2.79⑨	3.61①	2.96⑦	3.03⑥	3.34③
3.社会の将来の発展にとって大切であると思った	+++	+++	+++	+++	++		---		+++
	3.74③	3.29⑤	4.19①	3.77②	3.24⑥	3.11⑦	2.84⑨	3.09⑧	3.37④
4.力を入れて取り組んだ		+++	+++		---		---		-
	3.42③	3.54②	3.58①	3.28⑤	3.01⑧	3.23⑥	2.85⑨	3.29④	3.16⑦
5.授業中、楽しくさせてくれた	---	---	---	---	---		---		---
	3.18⑤	2.77⑨	3.00⑦	3.06⑥	2.77⑧	3.52②	3.24④	3.58①	3.27③

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる度合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、0.1%の水準。

表-12 教師イメージスコア (女)

	国 語	数 学	英 語	社 会	理 科	音 楽	美 術	体 育	技・家
1.自己に厳しく責任感が強い	+++ 3.71①	+ 3.63③	++ 3.67②	 3.40⑥	 3.41⑤	--- 3.08⑧	--- 3.07⑨	 3.50④	--- 3.24⑦
2.担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心	 2.41②	--- 2.66⑤	- 2.54③	--- 2.60④	--- 2.68⑥	--- 3.08⑧	--- 3.11⑨	 2.40①	--- 2.81⑦
3.生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする	 2.71②	- 2.85⑥	 2.73③	 2.80④	-- 2.88⑦	--- 3.02⑨	--- 2.90⑧	 2.67①	-- 2.82⑤
4.幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	+++ 3.97①	 3.24⑤	+++ 3.62③	+++ 3.64②	+ 3.30④	 3.19⑦	 3.23⑥	 3.17⑧	 3.17⑨
5.担当教科についての専門的知識や技能に秀でている	 4.05⑤	+++ 4.19①	+++ 4.17②	 3.98⑧	 4.00⑦	 4.06④	 4.08③	 4.02⑥	--- 3.88⑨
6.何事も積極的で、情熱が伝わってくる	- 3.53③	-- 3.51④	 3.62②	--- 3.30⑤	--- 3.28⑥	--- 3.15⑦	--- 3.13⑧	 3.68①	--- 3.11⑨
7.生徒に対するえこひいきが強い	+++ 2.92③	+++ 2.94⑤	++ 3.05⑦	+++ 2.73①	+++ 2.76②	++ 3.07⑧	+++ 2.93④	 3.25⑨	+++ 3.04⑥
8.教職を生活の手段として考えている	 3.17④	 3.17⑤	 3.13②	 3.21⑨	 3.18⑥	 3.19⑧	 3.11①	 3.14③	 3.18⑧
9.確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	+++ 3.56①	+ 3.48③	+ 3.49②	 3.35⑤	 3.27⑥	--- 3.15⑦	--- 3.07⑨	 3.36④	--- 3.10⑧
10.生徒からも他の教師からも離れた存在である	 2.27①	 2.39④	 2.32②	 2.41⑤	- 2.51⑥	--- 2.86⑧	--- 2.89⑨	 2.37③	--- 2.70⑦

1) スコアが高いほど、各イメージのあてはまる割合の高いことを示す。

2) 丸付きの数字は教科間における順位を示し、「+」「-」は当該教科のスコアが体育より高い、または低いことの有意差の存在を示す。一連、二連、三連はそれぞれ5%、1%、0.1%の水準。ただし2、3、7、8、10の5項目は逆転させて示してある。

森は「保健体育科については、男子学生には好意をもたれ、…女子学生にはそれ程好意はもたれていなかった」とのべているが<sup>8)</sup>、⊕、⊖の個数に見るかぎり本調査結果でも同様の指摘が可能であり、さらにその男女差は教師イメージよりも教科イメージによるのではないのか、というもう一歩つっこんだ知見が提供されている。(表-8 参照)

## V. 教科イメージ・教師イメージと体育教師の社会的地位

### ①「教科イメージ・教師イメージ」と教師の社会的地位

教科・教師イメージのもたれかたは教師の地位評定に影響を及ぼすことが考えられる。

地位スコアが教科・教師イメージによってどのような影響を受けているかをおおまかにみるために、教科別の地位スコアと各イメージ項目毎のスコアの順位相関を全体についてだしたのが表-13である。

四つの項目において有意な相関が認められる。

表-13 地位スコアとイメージスコアの関連性  
-順位相関係数-

1. 自分の将来にとって大切であると思った	.233
2. 得意であった	.000
3. 社会の将来の発展にとって大切であると思った	.633
4. 力を入れて取り組んだ	.600
5. 授業中、楽しくさせてくれた	-.967 **
6. 自己に厳しく責任感が強い	.767 **
7. 担当教科の指導だけで、学校全体の指導には無関心	.250
8. 生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする	-.180
9. 幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	.733 *
10. 担当教科についての専門的知識や技能に秀でている	.583
11. 何事にも積極的で、情熱が伝わってくる	.433
12. 生徒に対するえこひいきが強い	-.033
13. 教職を生活の手段として考えている。	-.333
14. 確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	.767 *
15. 生徒からも他の教師からも離れた存在である	.650

\*\*  $p < .01$  \*  $p < .05$

ただし1～5は教科イメージ、6～15は教師イメージ項目

「授業中、楽しくさせてくれた」ことは、教師の地位スコアに逆比例しており、これは体育教師が他教師にぬきんでてこの項目にポジティブなイメージをもたれているのに地位スコアが低い（九教科中八位）という、これまでに明らかになった結果に符合する。

「自己に厳しく責任感が強い」イメージをもたれることと地位スコアの高さの間には有意な正の相関がある。

「知識・教養や人間性」は教師の地位スコアと有意に正の相関関係にある。この結果も、これまでにみてきた該項目における体育教師のイメージの悪さに照らし合わせてみると、了解されるであろう。

「教育的信念や教育的理想」も教師の地位スコアとは有意に正の相関がみられる。

他の項目についても、有意な相関はみられないものの、教師の地位スコアとのおおまかな関連について察しをつけることができるであろう。しかしながら、順位相関自体、この場合おおまかな傾向を示すに過ぎないことに留意しておくことが必要であろう。

## ②体育教師の社会的地位を規定する要因の検討

次に、他教師と比べてみた場合の体育教師の地位スコアの高低からは一応離れて、体育教師の地位を規定する要因の構造を明らかにするために分析をすすめてみよう。

今回の調査において体育教師が九教科中八位の地位を占めることについては既にみてきたところであるが、これはあくまでも全サンプルの平均値を指標にした場合のことであることに留意しよう。つまり、体育教師を全教師のなかで最も高く評定したサンプルもなくはないのであり、このように体育教師の評定は一定の分散をしめしているのである。

このことに注目するならば、体育教師を高くまたは低く、あるいは中程度に、さまざまに評定し

ているサンプル群の間にどのような違いがみられるかを明るみに出すことが重要な意味をもってくることになる。

以上のような意図に応える統計的な解析法として、ここでは林の数量化理論第Ⅰ類を用い、説明変数として七要因群42アイテム128カテゴリーを採用した。本報告の中心は既に述べたように体育教師の社会的地位に対する教科イメージと教師イメージの影響力を明らかにすることにあるのであるが、それらの“真の”影響力や規定力をみるためには、関連する他の要因を同時に並べて多変量的に計算処理する必要があるのである。

さらに以下の分析においては他の教師との比較対照のために、地位スコアが一位であったところの数学教師を取り上げ、同一の統計的な解析を施した。

表-14は要因群毎の説明力をみるために、ステップ・ワイズ式でもとめた重相関係数をしめたものである。

表-14 投入ステップごとの重相関係数

step	要 因 群	体育教師	数学教師
I	属 性	.247	.075
II	生 活 観	.283	.115
III	職 業 観 ( 就 職 観 )	.314	.199
IV	地 位 の 評 定 基 準	.370	.340
V	教 科 イ メ ー ジ	.453	.392
VI	教 師 イ メ ー ジ	.532	.439
VII	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	.540	.468

「属性」要因群が数学教師よりも体育教師でおおきく効いており、「職業観」群では逆に数学教師に対する効きかたが大きいようである。

「教科イメージ」「教師イメージ」の両群ではいずれも体育教師に対する説明力が大きいという数値がでている。

次に表-15と表-16より、アイテムやカテゴリーの段階まで下りたって、規定力の様相をみてみることにしよう。以下偏相関が有意なアイテムに限定し、必要なコメントを付することにする。

#### 「教科イメージ」「教師イメージ」以外のアイテムについて

- 「性別」；男子よりも女子が高く評定する傾向にある（体育教師）
- 「専攻」；教育系が他系より高く評定する傾向にある（体育教師）
- 「生活目標」；「正」志向が他より高く評定する傾向にある（体育教師）
- 「勤労観」；「仕事以外中心」が高く、「どちらかといえば仕事中心」が低く評定している（体育教師）
- 「労働時間が少ない」；「重視」が高く、「軽視」が低く評定する傾向にある（体育教師）
- 「収入の高さ」；「非常に重視」が高く、「重視せず」が低く評定する傾向にある（数学教師）
- 「収入の安定性」；「非常に重視」が高く、「重視せず」が低く評定する傾向にある（体育教師：数

表-15 体育教師の地位スコアを規定する要因  
—数量化理論第I類による分析—

	ア イ テ ム	C	C S	偏相関		ア イ テ ム	C	C S	偏相関
属 性	性 別	男 女	-2.82 2.93	.104 **	教 科	自分の将来に大切	I II III	2.02 0.28 -7.76	.145 **
	専 攻	理系 文系 教育	-1.91 -1.51 2.64	.081 **		得 意	I II III	1.06 0.05 -1.80	.042
生 活 観	生活目標	快 利 愛 正	0.34 0.90 -2.64 8.76	.140 **	イ メ ジ	社会の発展に大切	I II III	1.97 -0.56 -1.26	.059
	勤労観	A B C D E	-1.41 -4.40 0.12 -0.49 4.80	.075 **		力を入れて取り組んだ	I II III	1.62 -0.02 -3.08	.066
職 業 観	平凡でも収入が安定	1 2 3	0.40 -0.60 0.61	.027	教 師	授業中楽しくさせてくれた	I II III	-1.42 0.65 5.62	.096 *
	人に使われず自分の力で	1 2 3	-0.72 0.25 0.36	.021		自己に厳しく責任感が強い	I II III	1.82 1.92 -8.90	.176 **
人 を 助 け 世 の 中 に 奉 仕	人を助け世の中に奉仕	1 2 3	-0.59 -0.25 0.84	.025	イ メ ジ	学校全体の教育に無関心	I II III	-0.21 -1.64 3.14	.073
	労働時間が少ない	1 2 3	3.97 -0.50 -2.20	.096 **		独善的・自己満足的な授業	I II III	1.23 0.10 -2.58	.065
人 か ら 尊 敬 さ れ る	人から尊敬される	1 2 3	-0.13 -0.28 0.84	.021	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	幅広い知識教養・豊かな人間性	I II III	3.93 0.42 -4.71	.139 **
	お金がもうかる	1 2 3	-0.76 0.16 2.54	.040		専門的知識・技能に秀でる	I II III	-0.01 -0.88 3.49	.045
仲 間 と 楽 し く や れ る	仲間と楽しくやれる	1 2 3	0.89 -1.48 -2.06	.056	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	積極的で情熱が伝わってくる	I II III	0.28 -0.54 0.56	.020
	収入の高さ	① ② ③	-1.05 -0.40 1.92	.046	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	不公平な処遇	I II III	-0.24 0.87 -0.63	.031
収入の安定性	収入の安定性	① ② ③	-3.54 0.17 1.81	.083 **		教職を生活の手段視	I II III	0.23 -0.94 1.38	.048
責任の大きさ	責任の大きさ	① ② ③	-1.39 1.41 -0.57	.059	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	教育的信念・教育的理想	I II III	1.15 -0.04 -2.44	.052
社会に対する貢献の大きさ	社会に対する貢献の大きさ	① ② ③	1.19 1.38 -2.10	.077 **		生徒・教師から離れた存在	I II III	1.23 -0.61 -1.79	.056
要請される能力や技能の高さ	要請される能力や技能の高さ	① ② ③	-0.94 0.07 1.04	.033	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	高校時代の運動部入部経験	i iii	0.17 -0.32	.018
	社会的緊要度	① ② ③	-1.02 -0.17 0.73	.029		高校時代の体育授業への期待	a b c	-0.02 0.40 -0.09	.007
能力や創造性を発揮する機会	能力や創造性を発揮する機会	① ② ③	5.77 -0.13 -1.99	.120 **		高校時代の体育の成績	A イ ウ	-1.21 0.94 -0.82	.049
	世間から受ける尊敬の大きさ	① ② ③	5.77 -0.13 -1.99	.049		体育系サークルへの参加	X Y	-2.28 1.14	.076 *
社会に対する影響の大きさ	社会に対する影響の大きさ	① ② ③	-1.13 -0.77 1.31	.061		体育授業以外の運動機会	α β γ	-0.21 1.46 -0.48	.036
	スポーツの価値意識	快 利 正 愛	-0.38 -1.66 1.14 0.50	.045		運動の好き嫌い	x y z	0.37 0.37 -1.17	.029

\*\* p<.0.1 \* p<.0.5  
重相関係数 0.540

C S : カテゴリースコア

C : 各説明変数のカテゴリー (数字・符号は下記の通り)

A~E : A.仕事中心→E.仕事以外中心 1:是非就きたい 2:できれば就きたい 3:あまり・全く就きたくない

①:非常に重視 ②:やや重視 ③:あまり・全く重視せず I:好意的イメージ II:中程度 III:非好意的イメージ

i:入部 ii:退部 iii:入部せず a:期待大 b:中程度 c:期待せず A:良い イ:普通 ウ:悪い

X:所属 Y:非所属 a:週1回以上 β:たまに γ:ほとんどない x:好き y:どちらでもない z:嫌い

表-16 数学教師の地位スコアを規定する要因  
—数量化理論第I類による分析—

	ア イ テ ム	C	C S	偏相関		ア イ テ ム	C	C S	偏相関
属 性	性 別	男 女	-0.37 0.38	.019	教 科	自分の将来に大切	I II III	1.20 -0.91 -1.97	.067
	専 攻	理系 文系 教育	-1.23 1.70 -0.84	.057		得 意	I II III	-0.99 0.73 1.26	.051
生 活 観	生活目標	快 利 愛 正	0.00 -0.69 0.38 0.71	.026	イ メ ジ	社会の発展に大切	I II III	2.90 -2.64 -2.11	.137 **
	勤労観	A B C D E	-2.91 1.01 0.23 0.30 -4.09	.058		力を入れて取り組んだ	I II III	0.40 -1.55 0.29	.040
職 業 観	平凡でも収入が安定	1 2 3	1.75 -0.95 -0.07	.059	教 師	授業中楽しくさせてくれた	I II III	-1.17 1.45 -0.23	.055
	人に使われず自分の力で	1 2 3	-0.86 0.19 0.82	.031		自己に厳しく責任感が強い	I II III	0.69 0.13 -2.85	.058
	人を助け世の中に奉仕	1 2 3	0.14 1.10 -1.96	.071		学校全体の教育に無関心	I II III	1.11 -1.92 0.64	.071
	労働時間が少ない	1 2 3	1.13 -0.24 -0.42	.029		独善的・自己満足的な授業	I II III	-1.40 0.09 1.50	.060
	人から尊敬される	1 2 3	-1.51 0.09 1.86	.060		幅広い知識教養・豊かな人間性	I II III	2.08 -0.47 -2.09	.078 *
	お金がもうかる	1 2 3	-1.05 0.50 2.11	.047		専門的知識・技能に秀でる	I II III	0.87 -3.57 1.55	.095 *
	仲間と楽しくやれる	1 2 3	0.77 -1.40 -0.78	.054		積極的で情熱が伝わってくる	I II III	1.29 -0.45 -2.41	.066
	収入の高さ	① ② ③	2.61 -0.03 -3.22	.106 **		不公平な処遇	I II III	0.26 0.09 -0.34	.013
	収入の安定性	① ② ③	3.85 -1.21 -0.82	.102 **		教職を生活の手段視	I II III	1.32 0.77 -1.87	.072
	責任の大きさ	① ② ③	1.23 -2.12 1.58	.097 *		教育的信念・教育的理想	I II III	-0.54 0.97 -1.44	.047
評 定 基 準	社会に対する貢献の大きさ	① ② ③	-1.53 0.64 0.17	.044	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	生徒・教師から離れた存在	I II III	0.62 -0.96 0.45	.038
	要請される能力や技能の高さ	① ② ③	0.66 0.50 -1.86	.056		高校時代の運動部入部経験	i ii iii	-2.30 0.75 1.61	.095 *
	社会的緊要度	① ② ③	0.87 -0.41 0.00	.026		高校時代の体育授業への期待	a b c	-0.60 -0.33 0.71	.034
	能力や創造性を発揮する機会	① ② ③	3.17 -0.98 -0.23	.077 *		高校時代の体育の成績	A イ ウ	0.48 -0.13 -1.13	.024
	世間から受ける尊敬の大きさ	① ② ③	2.87 0.57 -1.98	.096 *		体育系サークルへの参加	X Y	3.00 -1.50	.114 **
	社会に対する影響の大きさ	① ② ③	4.23 -1.72 0.29	.104 **		体育授業以外の運動機会	α β γ	0.08 -2.17 0.93	.063
						スポーツの価値意識	快 利 正 愛	0.25 1.76 -0.24 -3.49	.048
						運動の好き嫌い	x y z	0.58 -3.21 -1.14	.067

\*\* p<.01 \* p<.05  
重相関係数 0.468

C S : カテゴリースコア

C : 各説明変数のカテゴリー(数字・符号は下記の通り)

A~E : A.仕事中心-E.仕事以外中心 1 : 是非就きたい 2 : できれば就きたい 3 : あまり・全く就きたくない

① : 非常に重視 ② : やや重視 ③ : あまり・全く重視せず I : 好意的イメージ II : 中程度 III : 非好意的イメージ

i : 入部 ii : 退部 iii : 入部せず a : 期待大 b : 中程度 c : 期待せず A : 良い イ : 普通 ウ : 悪い

X : 所属 Y : 非所属 α : 週1回以上 β : たまに γ : ほとんどない x : 好き y : どちらでもない z : 嫌い



学教師はほぼ逆)

- 「責任の大きさ」；「やや重視」が他よりも高く評定する傾向にある（数学教師）
- 「社会に対する貢献の大きさ」；「重視せず」が他よりも低く評定する傾向にある（体育教師）
- 「能力や創造性を発揮する機会」；「非常に重視」が他よりも高く評定する傾向にある（体育教師：数学教師）
- 「世間から受ける尊敬の大きさ」；「重視する」程高く評定する傾向にある（数学教師）
- 「社会に対する影響の大きさ」；「重視する」程高く評定する傾向にある（数学教師）
- 「高校時代の運動部入部経験」；「有り」が低く、「無し」が高く評定する傾向にある（数学教師）
- 「体育系サークルへの参加」；「所属」が低く、「非所属」が高く評定する傾向にある（体育教師：数学教師は逆）

#### 「教科イメージ」「教師イメージ」について

- 「自分の将来に大切」；「好意的イメージ」は高く、「非好意的イメージ」は特に低い方に効いている（体育教師）
- 「社会の発展に大切」；「好意」が高く、それ以外は低く評定している傾向がある（数学教師）
- 「授業中楽しくさせてくれた」；「好意」は低い方に、「非好意」は特に高い方に効いている（体育教師）
- 「自己に厳しく責任感が強い」；「非好意」が他より特に低い方に効いている（体育教師）
- 「幅広い知識・教養・豊かな人間性」；「好意」は高く、「非好意」は低い方に効いている（体育教師・数学教師）
- 「専門的知識・技能に秀でる」；「中程度のイメージ」が低い方に効いている（数学教師）

以上みてきたように、体育教師と高い地位スコアを与えられた数学教師のあいだには、その地位の分散を規定する要因構造に大きな違いが存在する。

特に、体育教師について一言付け加えるとすれば、体育教師は「授業中楽しくさせてくれる」という点については他教師にぬきんでて好意的なイメージをもたれているものの、その好意的イメージは地位スコアを低くする方向に効いているとの分析結果は、今日強調されているところの“楽しい体育”の“楽しさの質”の問い直しを迫るものといえよう。

#### ま と め

大学生を対象にした調査により、職業としての教師の地位はその属する学校段階と担当している教科の影響を受けており、学校段階別担当教科別教師の地位スコアを教師以外の他の職業をも含めて比較すると、高校、中学いずれの体育教師も低い地位を与えられていることが明らかになった。

このことは、個別職業としての中学、高校における体育教師を、固有の調査、研究の対象として取り上げることの妥当性、必要性を示すものといえる。

指摘したように体育教師は低い地位スコアをあたえられているにもかかわらず、彼らが担当する教科や教師について抱かれるイメージにおいてはむしろ好意的に受け止められている。

さらに体育教師の地位スコアの高低は、数学教師よりも教科や教師についてどのようなイメージをもたれているかによって影響される程度が比較的大きく、ここから体育教師自らの研修や努力によってその社会的地位の向上をはかる可能性を汲み取ることもできるであろう。

したがって、冒頭に述べたふたつの仮説、分析の焦点はその適切さが認められたといえるであろう。

### 引用文献

- 1) 新堀通也；「現代日本の教師～葛藤を中心として～」教育社会学研究 第28集 4 ページ, 1973
- 2) 近藤忠義；「体育教師の歴史」保健・体育科教育の教師論 日本体育社 17ページ, 1975
- 3) 1)に同じ 5 ページ
- 4) 岡田猛他；体育教師の社会的地位に関する研究(I)―高校生をもつ父兄による評価―  
鹿児島大学教育学部研究紀要 第38巻 1987
- 5) 例えば, SSM 調査では実際に「小学校の教諭 (先生)」を評定させ, その結果から「中学校教員」「高等学校教員」も同じスコアとして提示している。富永健一編；日本の階層構造,  
東京大学出版会 1979
- 6) 富永徳幸；体育教師の社会的評価に関する研究 筑波大学修士論文, 1984
- 7) 森孝子；教科別教師に対する学生の態度調査 国立音楽大学研究紀要第16集 181ページ, 1982
- 8) 同上 178ページ